

第24回日本証券アナリスト大会開会の辞

社団法人 日本証券アナリスト協会
会長 稲野 和利

第24回日本証券アナリスト大会の開会に当たり主催者を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

本日は、ご多忙のところ、多数のご来賓の皆様、会員の皆様にご出席いただき厚くお礼申し上げます。

私ども日本証券アナリスト協会では証券アナリストの役割を広く社会に認識していただくとともに、会員の自己研鑽と相互交流を目的として、毎年10月に日本証券アナリスト大会を開催しております。

ご高承のとおり、世界の金融・経済は昨年9月のリーマン・ショック以降100年に1度と言われる危機に陥りました。世界各国の真剣な対応により最悪な状況は何とか避けられつつあるようにみられますが、引き続き危機からの脱却が我が国を含めて世界の当面の重要な課題であります。

今年の大会はこうした状況を踏まえメインテーマを「金融・経済危機とその克服」としました。また、より充実した大会を目指してスケジュールを1日に拡大し、すでに午前の部で2名の講師から金融・経済危機を踏まえての資産運用のあり方について大変有益な講演をいただきました。午後の部も素晴らしい講師、パネリストをお招きしております。引き続き有意義かつ含蓄の深い講演や討議が行われるものと期待しております。

それでは、ここで当協会の現状と今後の取り組みについてお話いたします。

第1は、当協会の役員の変換です。去る8月20日開催の臨時総会とそれに続く理事会において、新役員の変任が行われました。すでにご報告のとおり、私が会長を仰せつかり、副会長には大場昭義（おおば あきよし）氏と新井富雄（あらい とみお）氏が選任されました。理事数は40名から26名に削減しましたが、これは新役員の変任途中で予想される

公益法人改革への対応を展望したものです。私ども新役員陣は会員の皆様方のために、また資本市場のより良い発展のために最大限の努力をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

第2は、会員の状況です。会員数は引き続き増加しており、個人会員は23,200名余、法人・賛助会員510社、合わせて23,700余に達しております。しかし、金融経済環境の厳しさを反映してこのところ通信教育の受講者数は伸び悩んでおり、つれて会員の増加テンポも鈍っております。こうした状況への即効策はありませんが、証券アナリストの役割やその重要性について金融機関や企業の経営者の方々に理解していただくために種々努力をしているところです。別の表現をすれば、CMAのブランド力向上が鍵であり、そのためにもCMAの裾野拡大が欠かせないと考えております。プロモーション活動の一環としている寄附講座など大学との連携強化もこうした観点に立ったものです。

第3は、教育プログラムの充実です。ご承知の通り数年かけて全面見直しを行った証券アナリスト通信教育講座は既に昨年の二次試験をもってすべて新プログラムに切り替えられました。この新通信教育講座は内容は勿論、学び易さの面でも工夫されていますが、通信教育のみでは難しい面があることも確かです。このために補完的に対面教育が必要であると考え、現在数量分析入門教室、国際公認投資アナリスト(CIIA)スクーリングを実施しています。さらに、来年2月からはこれらに加えて、「ポートフォリオ理論初級講座」をスタートさせる予定であり、先行きはさらに整備を進めていく方針です。また、2007年から富裕層の資産運用に関し、プライベートバンキングセミナーという形で教育プログラムを提供しています。これは世の中のニーズに応えつつ、会員の活躍の場の拡大にもつながるものと考えております。

第4は、会員へのサービス向上です。変化の激しい時代だけに会員の継続学習が一層重要性を増しております。このため年間80回を超える多種多様なセミナー・講演会を実施しているほか、その要旨をホームページへ掲載するとともに、小冊子で会員へお届けしています。なお、これまで21年間続いてきた米国CFA協会との共同セミナーは先方からの申し出により、本年をもって終了しましたが、来年からは新たに「SAAJ国際セミナー」として

ヨーロッパやアジアのアナリスト協会連合会などのサポートを得ながら、従来にも増して中身の濃いセミナーを実施してまいります。

また、本日のアナリスト大会を皮切りに今後講演会等の動画配信を Web 会員向けに開始します。ご多忙な皆さんにはぜひご活用いただきたいと思っております。

証券アナリストジャーナルもより充実するとともに、少しでも多くの会員に読んでいただけるものを目指しております。11月号からは経済・産業分析シリーズの掲載を開始します。なお、既に本年春からは掲載論文の Web での閲覧・ダウンロードもできるようになっておりますのでご利用ください。

地方在住の会員へのサービス向上は引き続き重要な課題であります。かねてより地方での講演会の開催に努めていることに加えて、昨年からは会員の自主勉強と交流の促進を目的に「地区交流会」を全国に創設する方向で取り組んでおります。すでに九州地区交流会が設立され、活発に自主勉強会を行っており、近々東海地区交流会もスタートする予定です。講演会等の動画配信の実施も地方在住会員サービスを強く意識したものであります。

これらに加え、会社説明会は、年間 1,000 回を超える事業となっておりますほか、2007 年度から始めた個人投資家向け会社説明会も定着してきております。

さらに、これらを支えるインフラとして新基幹コンピューターシステムが本年 3 月から稼働しました。会員の皆様には「マイページ機能」を新たに提供し、会社説明会や講演会等への参加申込、住所変更や Eメールアドレスの変更などがインターネットで簡単に出来ますし、ただ今申し上げましたように動画配信は Web 会員向けです。皆さんの利便性向上と協会業務の効率化のためにも Web 移行手続きがお済みでない方はお早めにお問い合わせいたします。

第 5 に、当協会では各種委員会や研究会を設けて、証券アナリスト業務に係る事項に関して広く会員の意見を徴求し、取り纏めのうえ対外的に積極的な意見表明を行っております。特に、企業会計研究会では、財務諸表のユーザーである証券アナリストの立場から国際会計基準に関する意見書を内外の関係機関に数多く提出しています。どのようなものかについてはぜひホームページでご確認ください。またグローバル投資パフォーマンス基準 (GIPS) についても、2010 年の改訂に向けて積極的に意見表明を行っております。

さらに、世間に対するアピールという点では、上場企業のディスクロージャーのレベル

アップのためのディスクロージャー優良企業表彰制度や証券アナリストジャーナルの優秀論文表彰も重要であり、本日 17 時過ぎから表彰式を予定しております。

最後は、公益法人改革と 50 周年に向けての協会の取り組み状況です。公益法人改革の法律は昨年 12 月に施行され、5 年間の経過措置が設けられております。当協会ではワーキンググループを設置して、今後新法の下で公益社団法人とするか、あるいは一般社団法人を選択するか、その場合定款・諸規程をどう見直すかなど種々検討しております。いずれ会員の皆様のご意見をお聞きしながらあるべき方向を打ち出していきたいと考えております。

ところで、当協会は 3 年後の平成 24 年 10 月に創立 50 周年を迎えます。歴史的な節目でありますので、沿革史の発行、記念大会の開催などの記念事業もさることながら、これを機に今後の発展に向けての協会自体のあり方を見直す機会にしたいとの方針で臨んでおります。これまで申し上げました新規の事柄の多くもこうした方針を踏まえたものであることを申し添えます。

以上縷々申し上げてまいりました。昨今の厳しい状況の中にあっては、悲観的、否定的文脈での言説が横行しがちですが、そういう中であって私は敢えて「夢」という言葉を意識的に使うようにしております。資本市場には「夢」があります。企業の夢、投資家の夢を同時に適えることが可能な場があります。日本の資本市場が、もっと多くの参加者の「夢」を実現できる場として発展することを、願って止まない次第です。そこで証券アナリストが果たす役割の重要性は言うまでもありません。資本市場の担い手、企業価値評価の担い手としての会員の皆さんの職業倫理と専門技能の練磨に期待したいと思います。そして、日本の資本市場の発展という「夢」を共有したいと思います。職業人としての誇りを共有していきたいと思っております。そのために協会としても努力を重ねていく所存であります。

それではこれを持ちまして開会の挨拶とさせていただきますが、私の挨拶を終えるに当たって、本大会の運営・企画に当たってくださいました小林委員長をはじめ、大会実行委員の方々に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。有難うございました。